

平成29年10月2日(月)



つつじが丘小学校  
学校だより

つつじ

昭島市立つつじが丘小学校長 上田 祥市



## 松田丈志さんの言葉

校長 上田 祥市

爽やかな秋空のもと、校庭から軽快な音楽に乗って子供たちの元気なかけ声が聞こえてきます。今、学校では、運動会に向けての仕上げの段階。当日たくさんの人に見てもらうことを楽しみに、どの学年も気合が日に日に高まっています。

運動会は、子供たちにとってわくわくドキドキする一大イベントであり、ともに創り上げる過程では、いくつものドラマが生まれます。1年生は初めての運動会で、大人数で踊る初めてのダンスに戸惑いながらも一生懸命。練習では2年生が1年生をリードし、お手本を示しています。3・4年生のよさこいソーランでは、4年生が先行して踊りを覚え、3年生に教えます。中学年の元気の良さが練習中から校庭に溢れます。5・6年生の組体操。昨年の6年生から引き継いだ思いを胸に挑む「オリンピズム Episode 1」うまくいかずに何度も挑む練習の中で、時には悔しさに涙し、時には嫌になって投げ出しそうになることもあります。しかし、周りの子が励ましたり、ペアやグループで声を掛け合ったりして、一つずつ技を成功していくたびに、心が強くなり、相手を思いやる優しさが生まれます。

9月の学校公開で、オリンピックメダリスト松田丈志さんの講演がありました。その講演の中で話された、松田さんのきらめく言葉を子供たちはちゃんと受け取っていました。

「最初のアテネオリンピックでは、惨敗。その時に感じたメダリストとの様々な待遇の差に、悔しくて、絶対にメダルを取ると思いました。」

「久世コーチと二人三脚で小さい頃からものすごい練習をしてきました。でも、北京でバタフラ

イ銅メダル、ロンドンでバタフライ銅メダルとメドレーリレー銀メダルを取ったけど、どうしても金メダルは取れなかった。そこで、コーチと別れ、別の大勢のライバルたちとの練習環境に身を置くことにしました。でも、結果は…惨敗。もう一度オリンピックで金メダルを取るため、久世コーチの元に戻り、『リオオリンピックで金メダル』を目指して頑張りました。」

「うまくいなくて大変だった時、周りを見ると自分を応援してくれる人たちがたくさんいることに気がきました。自分は応援してくれる人たちの力を自分の力に変えなければ。そして、自分がいつでも応援される人でありたい。そう思いました。」

「リオで目指したバタフライの国内選考で負けましたが、結局フリーリレーの選手として選ばれ臨んだリオオリンピック。52年ぶりのメダル獲得。夢をあきらめず努力し続け取った銅メダルは、僕にとって金と同じ〔銅〕メダルでした。」

講演後、子供たちが松田さんに送った手紙を一人だけ紹介します。

杉の子学級五年 石山 永遠

「松田さんへ。大切にしたいゆめができれば、かなえることができるかたのしみです。」

今、おもったのですが、松田さんは、どのくらい楽しいことがありましたか。ぼくも、楽しいことがたくさんあります。金メダルをとったことは、がんばったしょうこです。ぼくは、そういう松田さんを見て、かっこいいとおもいます。ぼくも、かっこよく生きたいとおもいました。」

これから子供たちは松田さんの言葉を胸に、一人一人のチャレンジをしていくと思います。